

第1号様式

(第1面)

事業活動脱炭素化取組計画書

(宛先) 川崎市長

郵便番号 108-8509

住 所 東京都港区芝浦三丁目4番1号 グランパークタワー

氏 名 川崎オキシトン株式会社

取締役社長 大平 透

(代理人) 工場長 伊藤 健

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	川崎オキシトン株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区小島町3-9		
該当する事業者の要件 及び温室効果ガスの排 出を行う産業、運輸そ の他の部門	<input checked="" type="checkbox"/>	規則第4条第1号該当事業者	産業 部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第2号該当事業者	部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第3号該当事業者	部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第4号該当事業者	部門
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	液化ガス・圧縮ガスの製造、販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量	23,493 kL
	<input type="checkbox"/>	自動車の台数	台
	<input type="checkbox"/>	エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	2025 年度 ～ 2027 年度
事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量の削減等を図るための基本方針	別添 指針様式のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減等に向けた組織体制	別添 指針様式のとおり
事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項	別添 指針様式のとおり
自動車の使用に伴う温室効果ガスの排出の量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項	別添 指針様式のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動脱炭素化取組指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。

1 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量の削減等を図るための基本方針

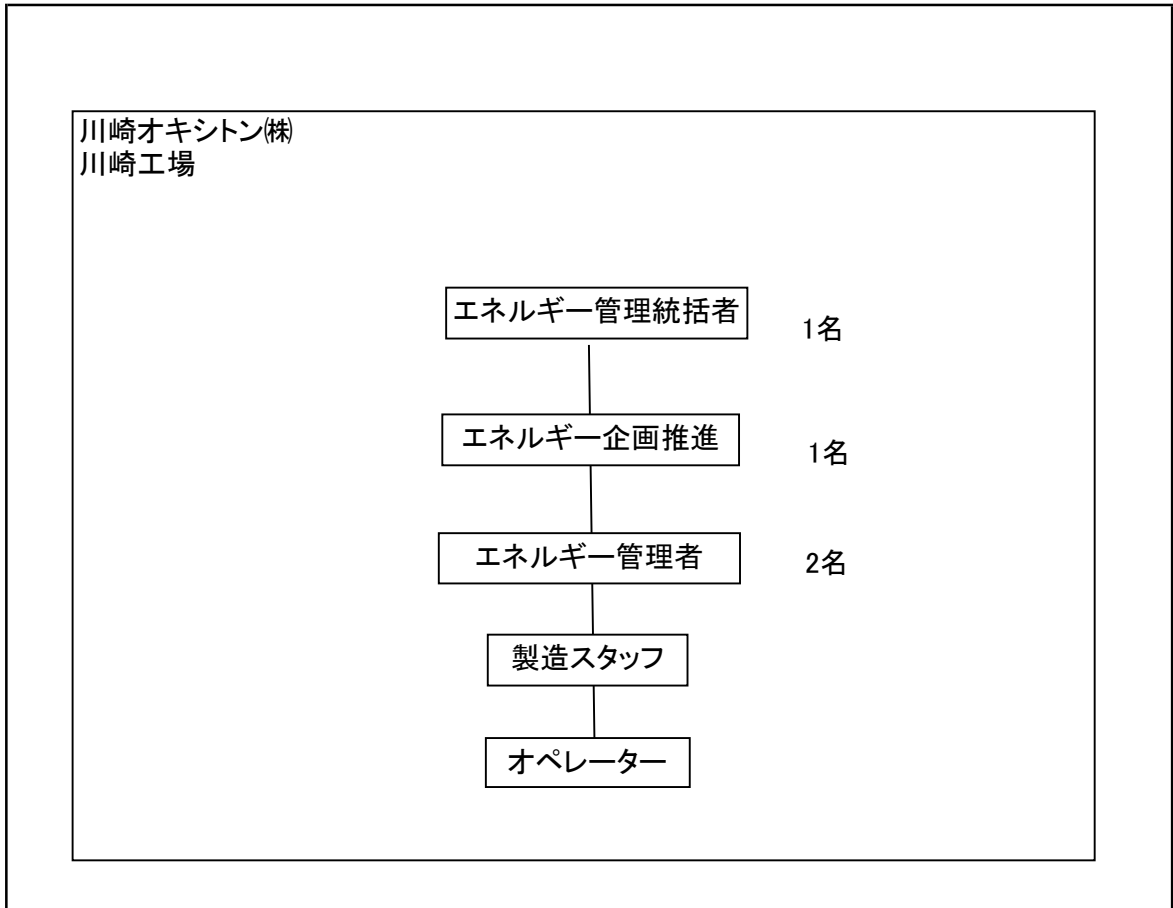
(1) 温室効果ガス排出量の削減等に向けた方針

1. 環境方針
 川崎オキシトン株式会社川崎工場は、空気液化分離装置を設置し、液化酸素、液化窒素、液化アルゴン、窒素ガス、酸素ガスの製造をしています。
 環境問題は地球規模且つ永続的な問題であるとの認識のもと、以下の方針に基づき、環境マネジメント活動を推進していきます。
 1) 当工場の事業活動、製品及びサービスが与える影響を的確に評価し、環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスの継続的な改善を図る。
 2) 環境に関する法規制及び地域社会との協定を順守し、地域との協調を図り、自主基準の制定により一層の環境保全に取り組む。
 3) 環境保全活動の優先課題として省エネルギーの推進に取り組んでいく。
 4) この環境方針を達成するため、工場全員が活動できる環境マネジメント組織を整備し、環境目的、環境目標、実施計画を定めて活動し、マネジメントレビューを実施し、環境目的、環境目標を見直す。
 5) 環境教育、啓蒙活動等により工場全員の環境方針の理解と環境保全の意識向上を図り、その達成に努める。また、協力会社にも理解と協力を要請する。
 6) この環境方針は、一般の人が入手可能とする。
 JIS Q 14001:2004 2006年7月24日 取得範囲：液化酸素、液化窒素、液化アルゴン、窒素ガス、酸素ガスの製造・販売

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

①排出量策計画に基づき、省エネ及び排出量削減の目標設定を行い、年度計画を策定する。具体的な実施項目と予算化する必要のあるものは毎年夏季前の予算作成および予算会議にて確認する。
 ②年度計画の実施項目の進捗管理とエネルギー使用量及び排出量の実績管理を行い、予算管理も含めた運転・設備保全上での省エネ課題を整理し、年間計画の見直しを行う。
 ③会議にて省エネ及び排出量削減効果の検証を行い、その評価を行う。また、その評価により実施項目の効果の有無を確認する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減等に向けた組織体制



3 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項

(1) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量((基)は基礎排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。)

		1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
基準	年度	2024	年度	2024	年度	2024	年度
目標	年度	2027	年度	2027	年度	2027	年度
基準	排出量 (t-CO ₂)	(基) 45,424 (調) 45,424		(基) (調)		(基) (調)	
目標	排出量 (t-CO ₂)	(基) 48,240 (調) 48,240		(基) (調)		(基) (調)	
削減	量 (t-CO ₂)	(基) -2,816 (調) -2,816		(基) (調)		(基) (調)	
削減	率	(基) -6.2 % (調) -6.2 %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	

イ 温室効果ガスの排出の量の実績

			1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
第1年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
第2年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
第3年度	(年度)	排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	

(2) これまでの取組における温室効果ガス排出の量の削減目標等

比較年度	1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
	2013	年度	2013	年度	2013	年度
比較年度排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)	49,982 38,652	(基) (調)		(基) (調)	
目標排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)	48,240 48,240	(基) (調)		(基) (調)	
削減率(目標)	(基) (調)	3.5 % -24.8 %	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %
削減率(第1年度)	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %
削減率(第2年度)	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %
削減率(第3年度)	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %

(3) 目標設定に関する説明

・弊社は空気液化分離装置を有しており、需要の増減に伴い生産数量の調整を行っている。CO2排出量は生産数量に依存するため原単位の改善を管理目標とする活動となる。
 ・排出量原単位の削減目標は1%とした。
 ・液化ガス、圧縮ガスの生産数量はNm³で算定し、使用した電力量を使って算定する。
 ・CO2削減量については、削減量を1年度ごとに確認し、必要に応じて設定目標を検討する。

(4) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施する温室効果ガスの排出量の削減に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	(1)運転プログラムの改良 既存のシステム(ハード面)、及びプログラム(ソフト面)を改良し、プラント運転の自動化並びに効率化を図る。 (2)大型機器の整備 大型圧縮機の整備を実施し、効率改善を図る。 (3)大型電動機の効率化 大型電動機を高効率仕様に変更し、効率改善を図る。
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間における排出量の増減等についての評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

4 エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項

(1) エネルギーの使用量に係る原単位等の値(1、2号該当者)

原単位等の活動量		生産数量		原単位等の単位		kl/kNm3
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度	
エネルギー消費原単位等の値	0.2126					0.210
活動量の値	110400					110300
エネルギー消費原単位の削減率		%	%	%		1.2 %

(2) 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値(4号該当者)

原単位等の活動量		生産数量		原単位等の単位		
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度	
排出量原単位等の値						
活動量の値						
排出量原単位の削減率		%	%	%		%

(3) 目標設定に関する説明

・弊社は空気液化分離装置を有しており、需要の増減に伴い生産数量の調整を行っている。CO2排出量は生産数量に依存するため原単位の改善を管理目標とする活動となる。

・エネルギー消費原単位の削減目標は1.2%とした。

・液化ガス、圧縮ガスの生産数量はNm³で算定し、使用した電力量を使って算定する。

・CO2削減量については、削減量を1年度ごとに確認し、必要に応じて設定目標を検討する。

(4) 基準年度からの原油換算エネルギー使用量等の推移(1、2号該当者)

ア 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
原油換算エネルギー使用量	23,493 kL	kL	kL	kL
エネルギー起源CO ₂ 排出量	45,424 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
事業所の数	1			

イ 事業所単位

基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量<<クレジット考慮>>(t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
川崎工場	川崎市川崎区小島町3-9	45,424			

(5) 計画期間のエネルギー消費原単位等の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施するエネルギー消費原単位の改善、エネルギー使用量の削減等に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	(1) 運転プログラムの改良 既存のシステム(ハード面)、及びプログラム(ソフト面)を改良し、プラント運転の自動化並びに効率化を図る。 (2) 効率的な運転モードの運用 現在の電量契約の内容において昼間と夜間との間に料金差が発生しているため、安い夜間により多くの製品を製造するようにし、可能な限り昼間での製造量を控えることで原単位の改善を目指す。
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間におけるエネルギー消費原単位等についての評価(第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など(第3年度の報告時に記載)	

5 再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項 (1、2号該当者)

(1) 再生可能エネルギー源等の導入

ア 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入 (基準年度)

種 類	設備規模 (kW)	発電量 (kWh/年)	余剰売電量 (kWh/年)	導入 (保有) 年度
太 陽 光				
風 力				
バ イ オ マ ス (燃料:)				
そ の 他 ()				
そ の 他 ()				
合 計		0	0	

イ 使用電力の再生可能エネルギー電源比率

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
電力エネルギー消費量	105,393,180 kWh	kWh	kWh	kWh	105,360,000 kWh
再エネ電源等	5,269,659 kWh	kWh	kWh	kWh	5,269,659 kWh
再エネ電源比率	5.0 %	%	%	%	5.0 %

(2) 電気事業者等から調達する電力の排出係数

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
排出係数 (kg-CO ₂ /kWh)	0.431				0.431

(3) 使用エネルギーの電化の取組

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
電化の割合	100.0 %	%	%	%	100.0 %

(4) 目標設定に関する説明

予定なし

(5) 計画期間の再生可能エネルギー源等の導入、電気事業者等から調達する電力の温室効果ガス排出係数等の状況

計画	特になし	
第 1 年度		
第 2 年度		
第 3 年度		
計画期間における再生可能エネルギー源等の導入等の評価 (第 3 年度の報告時に記載)		
上記評価を踏まえた改善対策など (第 3 年度の報告時に記載)		

7 温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項

(1) 全社を含む取組

ア 脱炭素表明・中長期の温室効果ガス削減目標の設定

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
(ア) 脱炭素に向けた表明の有無				
有無	上記目標等の設定なし			
内容				
(イ) 脱炭素に向けた表明の達成年度の目標				
年度	年度	年度	年度	年度
(ウ) 中間目標				
目標	年度	年度	年度	年度
	%削減 ()年度比	%削減 ()年度比	%削減 ()年度比	%削減 ()年度比

イ 脱炭素化に資するイノベーションの取組

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	取組実績なし			
内容				

ウ 中長期的な視点での温室効果ガスの排出量の削減目標

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	無			
内容				

エ 二酸化炭素を排出しない熱エネルギーの導入

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	導入なし			
内容				

オ SBT等イニシアチブへの加盟・賛同

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
SBT	該当なし			
RE100	該当なし			
RE Action	該当なし			
TCFD	該当なし			

カ サプライチェーン全体での削減の取組

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	記載なし			
内容				

(2) 市内事業所の取組

ア 川崎CNブランドの認定の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	製品・技術等の利用なし			
認証年度				

イ 川崎メカニズム認証制度の認証の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	取得なし			
認証年度				

備考 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

8 地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項（3から7までの事項を除く。）

（各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。）

<p>目標年度までの 計画</p>	<p>特になし</p>
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	